

全教

実教部NEWS

第116号

2020/4/24 発行

～第31回 定期総会成功裏に開催～

どの子にもゆきとどいた
実験・実習教育の充実を



全教実習教員部は2月16日、第31回定期総会を開催し、2019年度総括および2020年度方針を決定し、新役員を選出しました。

魚住部長のあいさつでは、「教育現場の働き方改革、変形労働時間制問題、先生が足りないことによる技術の継承や若手育成ができない問題は実習教員には同じくらい重要。実習教員部の制度改革に向けた要請行動や署名活動など、運動をより強固なものにするためにもみなさんのご協力が必要です。『つばめの哲学』のもと高速で動く時代の流れ、情勢の変化をいち早くキャッチ、共有し最高の形で子どもたちにとって私たちにとってよりよい実験・実習ができたらと願います」と話しました。



全教有馬副委員長のあいさつでは、「Society5.0（ソサエティ 5.0）に向けた人材育成のため急速に進めようとしている教育へのICT化問題点と私たちが目指している子どもたち一人ひとりの豊かな成長の発達を保障するものではないということが説明されました。また、11月4日に給特法の改正案として成立した一年単位の変形労働時間制は、時間外長時間労働の実態を覆い隠してしまい過労死を促すことになりかねません。全教は『先生を増やすんだ』と、教職員の専門性を守り、安心して働ける職場づくりを合言葉にずっとやってきています。今年度から『新たな三か年計画』にもとりくんでいます。バトンリレーにより実教部運動を力強く全国に広げていってほしい」と語られました。

討論では延べ20名から発言がありました。農業からは「労働安全衛生において草刈り機使用の『安全技能講習』、雪かき作業の『大型特殊車両免許受講や取得』について予算化されたこと」、大阪府高からは「19年ぶりの実習助手採用試験で、多くの実習教員が誕生になったこと」、富山高からは『部活動等の単独引率』が可能となったが中には『余分な仕事を増やさないで欲しい』との考えや意見の相違により私たちの運動との差をどうしていくかが今後課題となっていること」など、たくさんの発言をもとに意見交換や「教諭一元化」に向けた制度改革への課題について議論がおこなわれました。



また、「新たな三か年計画」では現場の教職員に「組合って」を問いかけ語りかけ組織拡大につなげていこうとまとめられ、「学び合い話し合いくみ会う」大切さを認識した総会となりました。

片桐事務局長から提案された第1号議案から第4号議案まで、いずれも満場一致で採択されました。

最後に総会アピールでは、「これまでのわたしたちの運動に自信と確信を持ち、あらゆる分野での国民的な共同と発展をすすめ、憲法を守り生かし、どの子にもゆきとどいた実験・実習教育の充実と保障がなされるよう全力を尽くしましょう」と呼びかけられ、大きな拍手とともに定期総会が終了しました。

◎総会で選出された新役員

部長	魚住 知一（山口高）
副部長	高橋 航（埼玉高）
副部長	藤元 広明（岡山高）
事務局長	片桐 和俊（長野高）
事務局次長	佐多美也子（大阪高）
常任委員	清水 正貴（北海道高）
常任委員	高橋 信夫（新潟高）
常任委員	松本 浩（全滋賀）
常任委員	安藤 秀明（香川高）
常任委員	川崎 貴子（佐賀高）

2020 全教実習教員部 新役員の方々



◎退任される役員のみなさんより

鷺津 康子（愛知高）

ありがとうございました



全国の実習教員のみなさん。
毎日の職場での働きを今一度振り返り、何が不足していて、こんなに多忙なのか。その多忙に対して、どのくらいのまわりの人間が理解してくれているのか。自分自身は、そのことについて、必要な場所で、訴えてきたのか。その後改善された事実はあるのか。今の仕事を継続していく覚悟があるのならば、教科の仲間に、同じ職種の仲間に、改めて問題意識を提示して欲しい。そして、各々の教育委員会での交渉の時に、未来を灯すことにつながる発言を期待します。



濱村 一代（長崎高）

この3年間、全国の皆様と交流ができ、たくさんの刺激を受け、本当に充実した勉強をさせていただきありがとうございました。ここでの経験を活かし長崎で少しでも役に立てるように尽力をつくしてまいりたいと思います。全教実習教員部の益々の発展をお祈りいたします。



三嶋 登忍（秋田高）

1年間の短い期間でしたが皆さんにはお世話になりました。初めて常任委員をやらせていただき、全国の皆さんと交流することで全てのことが勉強となり、よい経験となりました。北海道・東北ブロックの皆さんから推薦され常任委員に就いたのですが、任期も途中で勉強不足のところもありますので、機会がありましたら、もう一度お手伝いをしたいと思っています。1年間、楽しくやらせてもらいました。ありがとうございました。



☆☆ 全教定期大会の報告と発言 魚住部長 ☆☆

全教第37回定期大会は、2月8日～9日の2日間、都内で開催しました。2日間にわたる積極的な討論で「2020年度運動方針およびスローガン」をはじめ11の議案を採択しました。

大会討論では「憲法に立脚し、すべての子どもの成長・発達を保障する民主教育を父母・国民とともに前進させるとりくみ」など4つの柱に沿って進められ、2日間で67本69人の発言がありました。

実習教員部からの発言では、「『専門性磨く場を組合でも支える』、実験・実習の熟練した技の継承が困難になっていると全国でも問題になっています。昔は先輩から学べたが、今は『兼務』という状況で専門を磨く時間がありません。やはり『せんせいふやそう』が必要。全国学習交流集会で青年を中心に学ぶ場を設けています」。

